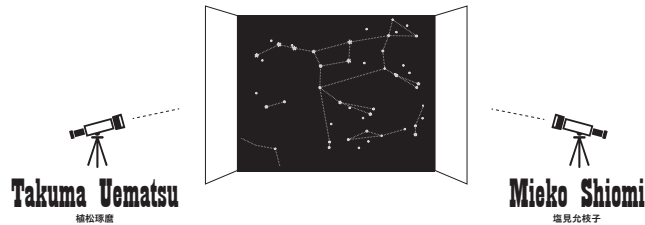




Exploring the Stars

星をめぐる冒険



Saturday, March 16 – Saturday, April 27, 2019



「星をめぐる冒険」 Exploring the Stars

塩見允枝子 植松琢磨 Mieko SHIOMI Takuma UEMATSU

会期：2019年3月16日（土） - 4月27日（土）

会場：Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 4-32-6 パークグレース新宿#206

営業時間：12:00-19:00 定休日：日、月、祝日

クローズングレセプション：4月27日（土）18:00-20:00

トークイベント：4月27日（土）17:00-18:00

*植松琢磨 x 西川美穂子（東京都現代美術館学芸員）

このたび、ユミコチバアソシエイツでは、塩見允枝子と植松琢磨の二人展「星をめぐる冒険」を開催いたします。

今回の二人展は、植松琢磨が塩見允枝子に声をかけたことから、コラボレーションが始まりました。

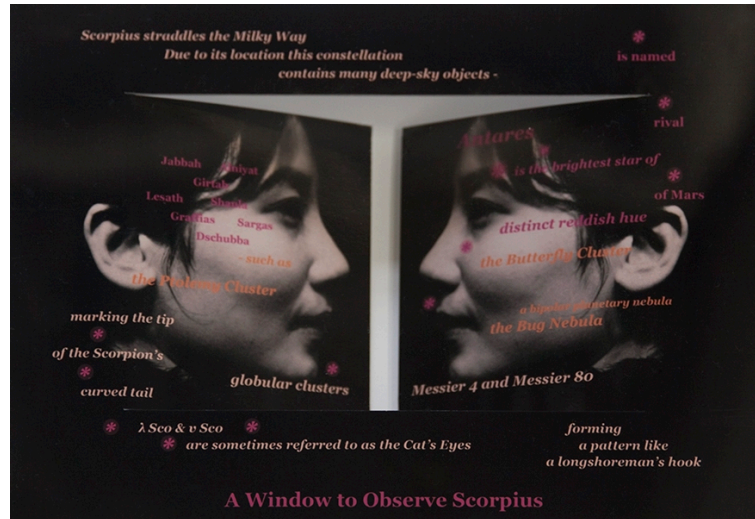
植松琢磨が塩見允枝子の作品に初めて触れたのは、8才の頃にピアノで弾いた「星の形をしたワルツ」という曲集でした。それから20年以上の時を経て、ある展覧会で塩見が企画するパフォーマンスに植松が参加し、二人は出会います。それは、2001年に国立国際美術館で行われた「ドイツにおけるフルクサス」という展覧会。その年は植松が作家として活動を始めた年でもあり、この出会いはその後の植松の制作に大きな影響を与えることとなります。

塩見允枝子は、日本で最初の即興演奏集団「グループ・音楽」を小杉武久や刀根康尚らと結成し、大学在学中より作家としてすでに活動をしていましたが、1963年にナム・ジュン・パイクと知り合い、パイクを通じてフルクサスを知り、翌年ニューヨークに渡ってその活動に参加します。形式にこだわらず、ジャンルを超え、常に不断の変化を求めて、日常を脱して流れと融合を繰り返すフルクサスの考えと行動は、まさに自身が音楽について考えていたことと同じでした。塩見はそこで、自然や日常の中のさまざまな事象を対象とするイベントと呼ばれる作品を作ります。

個人的体験の充足ではなく、他者や外部とより広く世界を共有するためのコミュニケーションの在り方が作品となり、地球を一つのステージと考え、自然や日常の中のさまざまな事象を対象として、その行為の中で偶然的に生まれるものを作品とする塩見の表現方法は、まさに植松が「人間も含め自然の流れのようなものを作品に取り」（*対談より抜粋）込もうとし、時間や次元を超える装置を作ろうと追っていたものでもありました。

今回、そうした二人がお互いの世界観を共有しながら、くっついては離れ、離れてはつながることを繰り返しながら、作品が生まれました。

展覧会の会場で流れるものをぜひ体験していただければ幸いです。



「星をめぐる冒険」

「All men have stars, but they are not the same things for different people.」
アントワーヌ・ド・サン＝テグジュペリの代表作である「星の王子さま」より。

物語を読んだことがある人なら容易に想像できるが、「人間はみんな、ちがった目で星を見てるんだ」というこの一説は人それぞれに固有の世界観があることを示唆する。

天体や宇宙に対する私たちの態度は、時代、国、民族の違いはもちろん、地域特有の伝説や神話、占星術、SFを通しての視点など、個人の体験によっても異なる様相を見せる。

「星をめぐる冒険」は、自然に魅了され、自然の事象を対象として制作してきた塩見允枝子と植松琢磨、年齢も経歴も違う2人の対話と思索だ。それは新しい物を生むというより、「流れ」「場」「状況」「偶然性」「音楽」「知識」といった要素を材料としながら、日常の新たな視点に触れる創造の旅である。そこでは、いつも予測を超えた何かが起こる。

■作家ステートメント

音だけでなく 水のような物質や影・落下といった現象 方向・バランスなどの概念や ときには天体の出来事さえも 創造的に係わりたいと願う魅力的な対象である --- 少女時代 自然に魅せられた私はそれを捕まえることを夢想した 音楽でも絵画でも文学でもない 何かもっと直接的な方法で --- 長じて作成した個々の作品は その方法を模索した痕跡に過ぎず その旅は今も続く

塩見允枝子

自然は、ダイナミックに振動し回転する総体であり、そこでは全ての関係性が流動的だ。そして生命は、モノとモノとの動的な関係性に生じ、それは、まさに時間とともに現れるきらめく現象と呼べよう。

偶然性と緊張感を孕みながら更新されていく創造的な世界において、装置なのか、場なのか。そんなきらめきを放つ作品を見てみたいと思っている。

植松琢磨

■クロージングレセプション

日時:2019年4月27日(土)18:00-20:00

会場:Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku

*展覧会初日ではありませんのでご注意ください。

■トークイベント

日時:2019年4月27日(土)17:00-18:00

会場:Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku

登壇者:植松琢磨 × 西川美穂子(東京都現代美術館学芸員)

※事前申込制、参加費:無料

【お申し込み方法】

件名「トークイベント参加」、本文に、参加人数、お名前、電話番号をご明記のうえ、event@ycassociates.co.jp までメールでお申し込みください。

*定員(20名)になり次第、受付を終了いたします。

*ギャラリーからの返信メールが届かない場合は、営業時間内にお問合せください。



■作家プロフィール

塩見允枝子 Mieko Shiomi

1938年 岡山市生まれ

1961年 東京芸術大学音楽学部楽理科卒業

東京芸術大学在学中より級友達と「グループ・音楽」を結成。1964年ニューヨークへ渡り、フルクサスに参加。1965年航空郵便によって世界各国の人々と同じイベントを行なう「スペイシャル・ポエム」のシリーズを開始し、帰国後も10年間に9つのイベントを行なう。一方、イベントをパフォーマンスとしても拡大し、インターメディアへと至る。

1970年大阪へ移住し、ことばと音を中心にした室内楽曲を多数作曲。1990年ヴェネチアでのフルクサス・フェスティバルへ参加して以来、欧米でのフルクサスの催物に頻繁に関わるようになる。と同時に国内でもフルクサスの催物を自主的に企画する。トランスメディアという独自の手法により、視覚作品、パフォーマンス、作曲など多ジャンルにわたる活動を現在も続けている。

個展

- 2013 「塩見允枝子とフルクサス」国立国際美術館(大阪)
- 2004 「ヴィジュアル・ポエトリー新作品展」ジーベック(神戸)
- 1998 「コラージュとマルチプル」フンデルトマルク画廊(ケルン、ドイツ)
- 1997 「フルクサスからメディアオペラへ」ギャラリー360°(東京)
- 1995 「フルクサス・バランス & バランス・ポエムス」J. & J. ドンギユイ画廊(パリ、フランス)
- 1993 「フルクサス・バランス」ジーベック(神戸) / スウォッシル・スタジオ(ウィーン、オーストリア)
- 1992 「バランス・ポエム」ジーベック(神戸) / アール・ヴィヴァン(東京)

主なグループ展

- 2018 「トラベラー: まだ見ぬ地を踏むために」国立国際美術館(大阪)
「エキゾダス」ホワイトボックス(ニューヨーク)
「都美セレクショングループ展 2018 - 複数形の世界のはじまりに」東京都美術館ギャラリーB(東京)
- 2017 「ジャパノラマ」ボンピドゥー・センター・メッス(メッス、フランス)
「ことばの生まれでる場所 / ヒックリコ ガックリコ」アーツ前橋(前橋)
- 2013 「ファースト・コンタクト—出来事がアートになるとき」倉敷市立美術館(倉敷)
- 2012 「インターメディア / トランスメディア」東京都現代美術館(東京)
「フルクサス 50周年 ‘ベン・パターソンの遊戯室’」ナツソー美術館(ナツソー、ドイツ)
- 2009 「elles@centrepompidou」ボンピドゥー・センター(パリ、フランス)
- 2008 「不協和音—日本のアーティスト6人」豊田市立美術館(豊田)

ソロ・コンサート/企画パフォーマンス

- 2017 「パフォーマンス・ワークショップ ‘水を演奏する’」京都市立芸術大学(京都)
- 2015 「フルクサス・パフォーマンス・ワークショップ」京都市立芸術大学(京都)
- 2014 「フルクサス・イン・ジャパン 2014」東京都現代美術館(東京)
- 2012 「インターメディア / トランスメディア」東京都現代美術館(東京)
- 2005 「フルクサス・レクチャー & パフォーマンス」京都市立芸術大学(京都)
- 2004 「Satoko Plays in Xebec ‘線の音楽・形の音楽’」ジーベック・ホール(神戸)
「フルクサス・パフォーマンス・ワークショップ」うらわ美術館(浦和)
- 2001 「フルクサス裁判」国立国際美術館(大阪)

主なグループ・コンサート

- 2019 「フルクサスを語る～講演・シンポジウム・コンサート～」京都市立芸術大学・大会館ホール(京都)
- 2018 「Dick e M.S.」Villa Aurora - Sala Edgar, Fagagna(イタリア)
- 2017 「五線譜に書けない音の世界」京都市立芸術大学ギャラリー・アクア(京都)
- 2016 「フルクサス 盆 フェスティバル」ギャラリー360°(東京)
- 2015 「智内威雄’第9回左手のアーカイヴコンサート’」東京文化会館小ホール(東京)
- 2013 「館野泉フェスティバル-左手の音楽祭」東京文化会館小ホール(東京)
- 2010 「大井浩明ピアノリサイタル 2011 in 芦屋」山村サロン(芦屋)
- 2004 「井上郷子ピアノリサイタル～鍵盤上のフルクサス～」カワイミュージックショップ青山(東京)
- 2001 「Concert:20-21 日本の作曲・21世紀へのあゆみ」紀尾井ホール(東京)
- 1996 「世界の女性作曲家—<東京の夏>音楽祭’96」津田ホール(東京)



植松琢磨 Takuma Uematsu

1977年生まれ 大阪在住

2000年 関西大学卒業

身体の物質性と生命の関係をテーマに、さまざまな素材を自在に組合せたインスタレーションや、動物のフォルムを使った造形作品を、国内外のギャラリー、美術館で発表。

世界を繋ぐ不可視な関係性に新たなイメージを見出し、
連綿とつづきながら未来にむけ広がっていく新しい世界の在り方を表現している。

個展

- 2016 「どこでもないところからの眺め」Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku(東京)
「星のみかた What people do for astronomical observation?」千葉市美術館 さや堂ホール(千葉)
- 2014 「platform」Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku(東京)
- 2012 「Hyper-Cycle」Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku(東京)
- 2010 「IMPULSE 22 with Fabian Chiquet」IMPULSE GALLERY Christian Löhrl(メンヒエングラートバッハ, ドイツ)
- 2006 「Life is a crystal」Kunstler-verein Malkasten(デュッセルドルフ, ドイツ)
「α M プロジェクト - 生命の部屋 -」ASK?(東京)

主なグループ展

- 2018 土祭(ヒジサイ)2018 土と益子-この土地で共に生きる-(茨城)
「あなたが[]ほしい」あまらぶアートラボ「A-Lab」(兵庫)
- 2017 「海と山のアート回廊」旧絵のまち館(広島)
神戸開港 150 年記念「港都 KOBE 芸術祭」神戸ハーバーランド高浜岸壁(兵庫)
春の芸術月間セイアンアートアテンション VOL.9「UNCOVER」成安造形大学(滋賀)
- 2014 「JAPON」聖アンドレ大修道院メイマック現代アートセンター(メイマック, フランス)
- 2013 「あなたがほしい i want you」WELTKUNSTZIMMER(デュッセルドルフ, ドイツ)
「Spektrum」IMPULSE GALLERY Christian Löhrl(メンヒエングラートバッハ, ドイツ)
- 2012 「1st Exhibition AGAIN-ST」東京造形大学 CS ギャラリー(東京)
- 2009-10 「THE GOD OF THE SMALL THINGS」casa Masaccio 現代美術センター(コルソ, イタリア)
- 2009 「神戸ビエンナーレ 2009 招待作家展 LINK-しなやかな逸脱」兵庫県立美術館(兵庫)
- 2008-09 「Ancient Futures」ソウル市立美術館(ソウル, 韓国)
- 2006 「Quadriennale 06 - Düsseldorf」GALERIE MAIER-HAHN(デュッセルドルフ, ドイツ)
- 2005 「The 1st Pocheon Asian Art Festival」Pocheon Banwol Art Hall(ポチョン, 韓国)

その他の活動

- 2015, 2018 エルメス petit h とのコラボレーションによるオブジェを発表
- 2014 「フルクサス・イン・ジャパン 2014 #6 Viva! フルクサス」に出演(東京都現代美術館)
銀座メゾンエルメス ウィンドウディスプレイ「新たな世界のために」(東京)
- 2013 Art Basel Hong Kong 2013 Encounters section(長谷川祐子選)Hong Kong Convention and Exhibition Center(香港, 中国)
「Music Today on Fluxus」に出演、国立国際美術館(大阪)
- 2004 「ベン・バターソンの冒険的大演奏旅行」に出演、ジーベックスタジオ(兵庫)
- 2001 「フルクサス裁判-破壊的ピアノ・パフォーマンスとコンピュータによる-」に出演、国立国際美術館(大阪)